

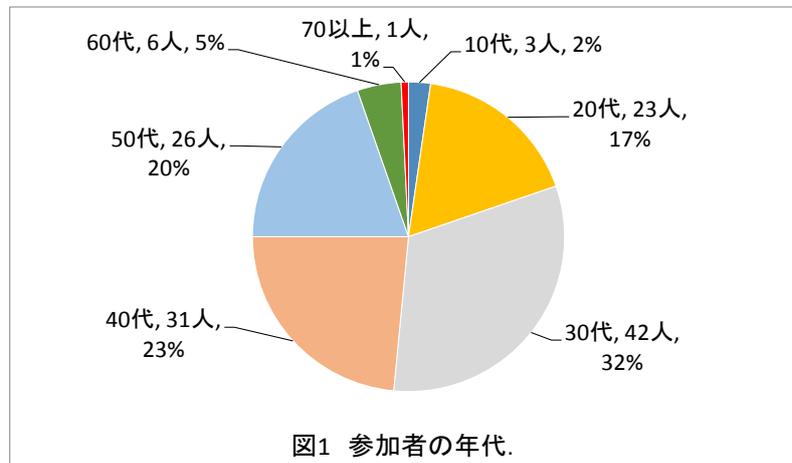
2018年度 研究ブランディング事業 シンポジウム参加者アンケート報告書

本年度のシンポジウムのテーマは「発達障害児の食支援」であった。シンポジウムは基調講演とディスカッションから構成されたが、基調講演には広島市西部こども療育センターなぎさ園の管理栄養士の藤井葉子氏を講師に招き、ディスカッションには本学園附属三光保育園園長・附属三光幼稚園副園長の福元芳子氏を招き開催した。

参加者は150名定員中、一般から148名、本学関係者11名、総勢159名の参加があった。また託児にはスタッフ9名（内教職員2名、託児対象18名）であった。アンケートは参加者全員に配布され、133名から回答があった。回収率は84%だった（ $133/159 \times 100$ ）。以下に質問項目毎に集計した。

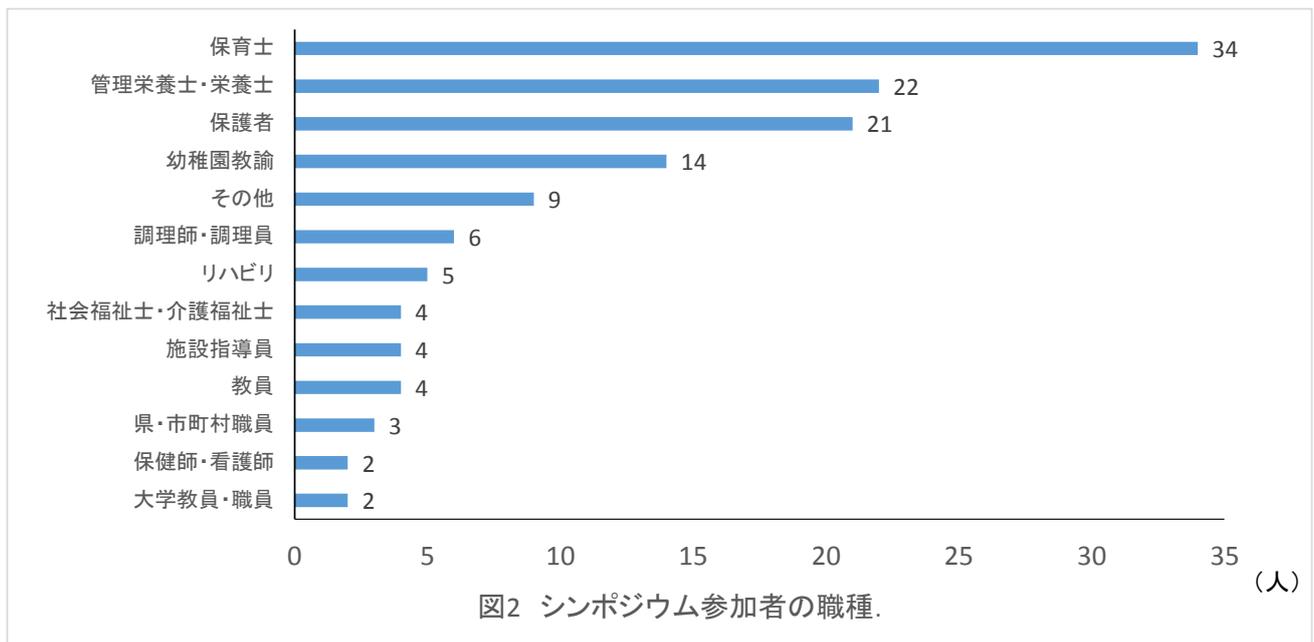
Q1. 参加者の年代（133人中132人が回答）

参加者の年代は30代が最も多くなっている（約32%）。また10代のうち2名は高校生であり、栄養関係の大学への進学を検討しており、今回のシンポジウムに関心を寄せて参加したとのこと。



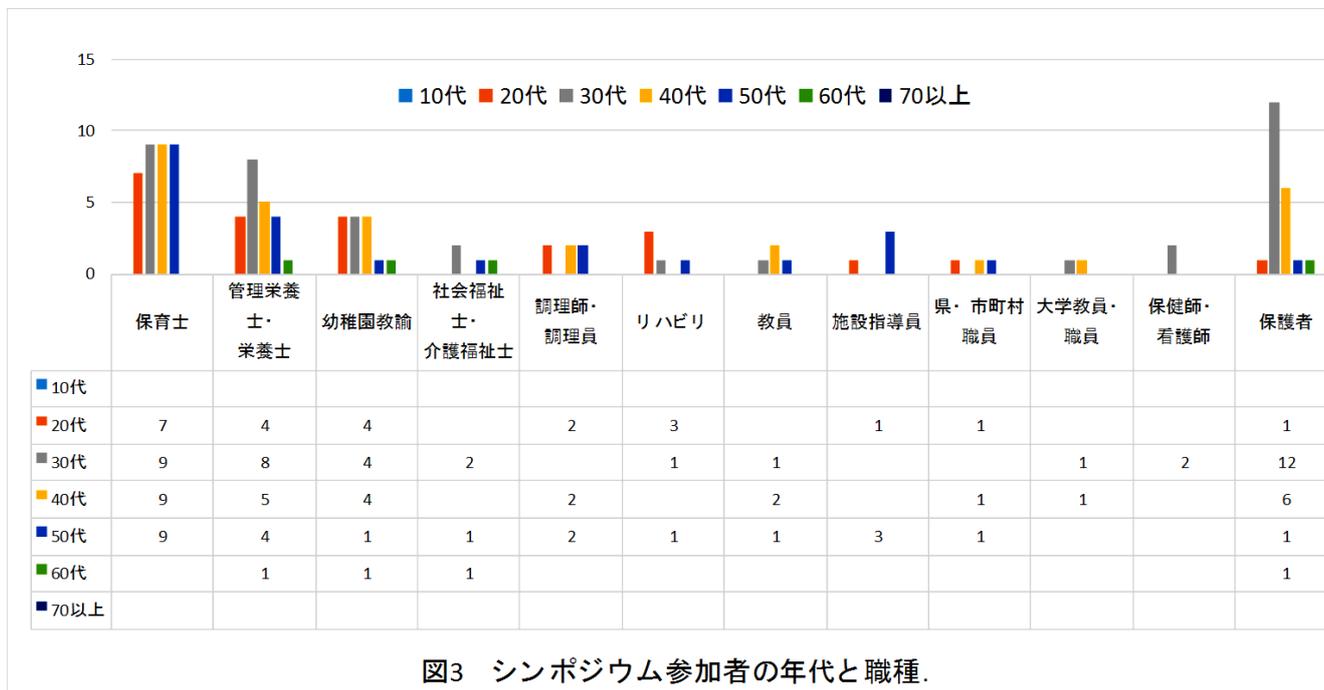
Q2. 参加者の職種

シンポジウム参加者の職種は図1の通りである（133名中3名無回答）。参加数の保育士、管理栄養士・栄養士、栄養士、保護者、幼稚園教諭の順で参加数が全体の70%を占めている。



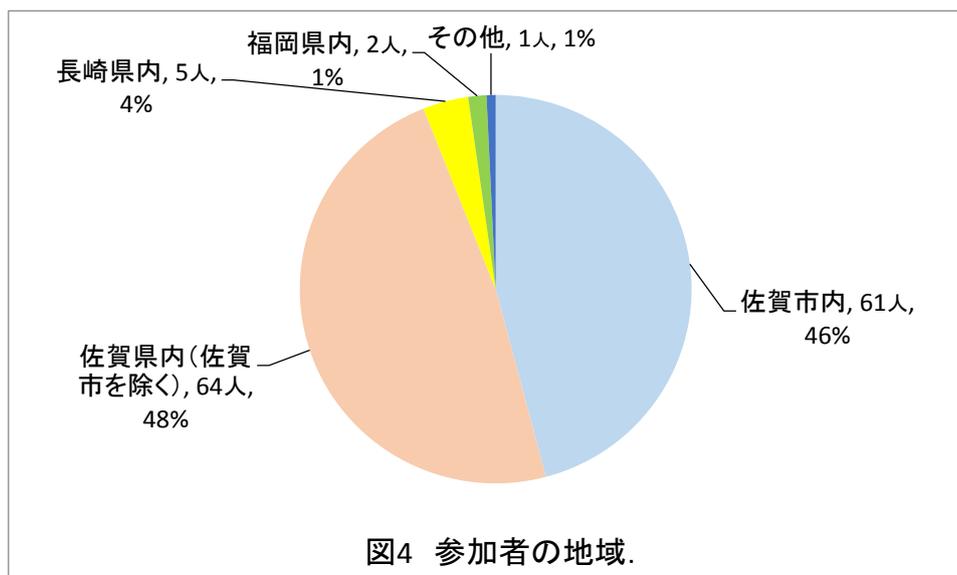
Q1 と Q2 をクロス集計したものが図 3 となる (N=129)。

保育士や幼稚園教諭については各世代が参加しているのが分かる。管理栄養士・栄養士については 30 代が数名多く、現場を任せられるようになった世代の参加がうかがえる。



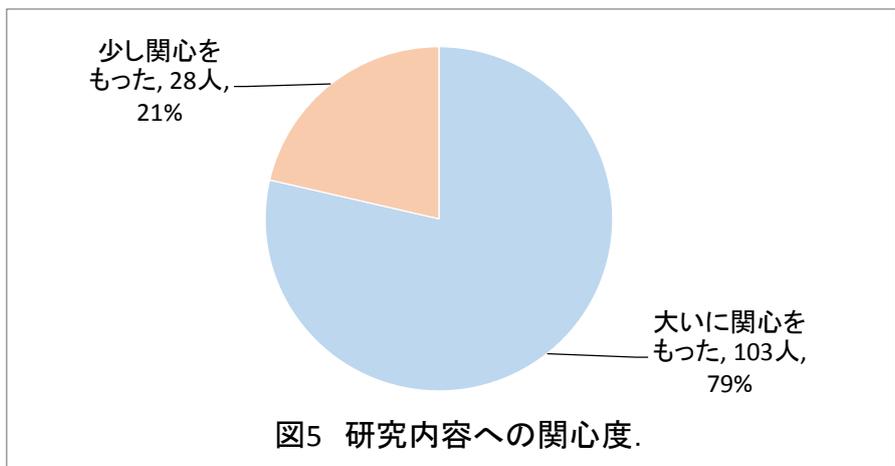
Q3. 参加者の地域

参加者の多くは佐賀市内あるいは佐賀県内からの参加であった。その他の 1 人は熊本県からの参加者(卒業生)だった。長崎県から 5 人、福岡県から 2 人の参加があり、シンポジウムのテーマに関する関心度がうかがえる。



Q4. 本事業の研究内容（発達障害児の二次障害予防支援）への関心度（N=131）

本事業への関心度について回答を求めた。「大いに関心をもった」「少し関心をもった」「あまり関心をもてなかった」「関心をもてなかった」の4つの選択肢とした。その結果、100%の参加者が大なり小なり関心を持ったことが分かった。

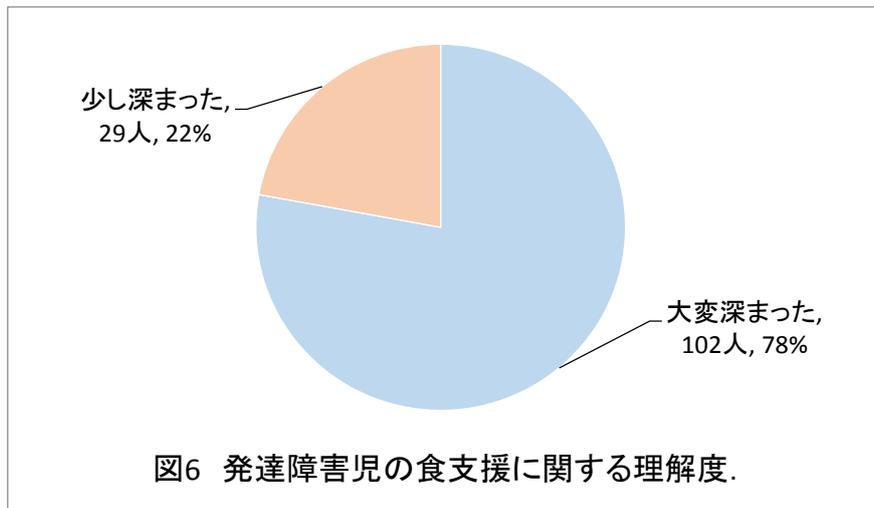


また、Q4を職種別にみると表1の通りとなった。管理栄養士・栄養士の多くが関心を示しており、シンポジウムへの協力が期待される。(N=128)

	大いに関心をもった	少し関心をもった	総計
保育士	27	7	34
管理栄養士・栄養士	19	3	22
保護者	13	1	14
幼稚園教諭	7	6	13
保護者(当事者の)	6	1	7
施設指導員	4	0	4
リハビリ	4	1	5
教員	0	4	4
県・市町村職員	3	0	3
調理師・調理員	3	2	5
社会福祉士・介護福祉士	3	1	4
大学教員・職員	2	0	2
保健師・看護師	2	0	2
その他	7	2	9
総計	100	28	128 (人)

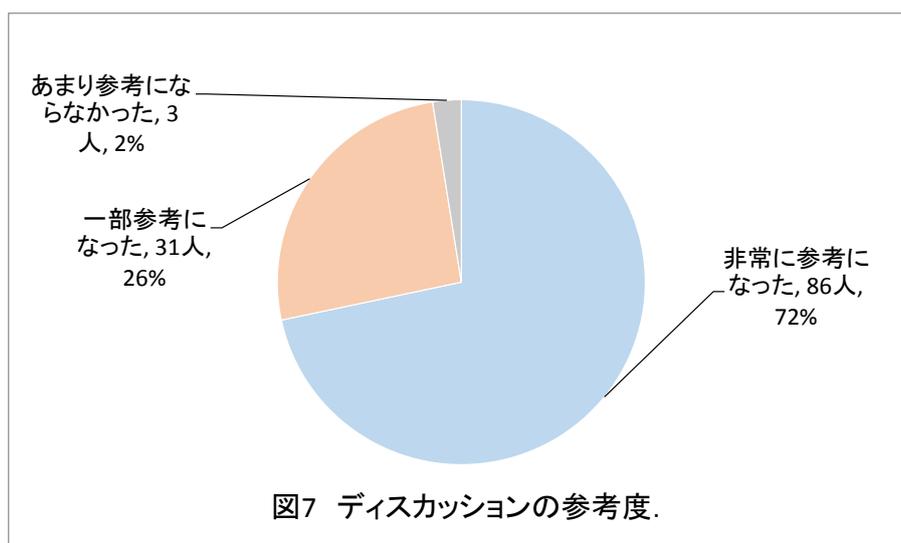
Q5. 発達障害児の食支援に関する理解度 (N=131)

シンポジウムを通じた発達障害児の食支援への理解度について回答を求めた。回答は「大変深まった」「少し深まった」「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の選択肢とした。その結果、100%の参加者が「理解が深まった」と回答していた。



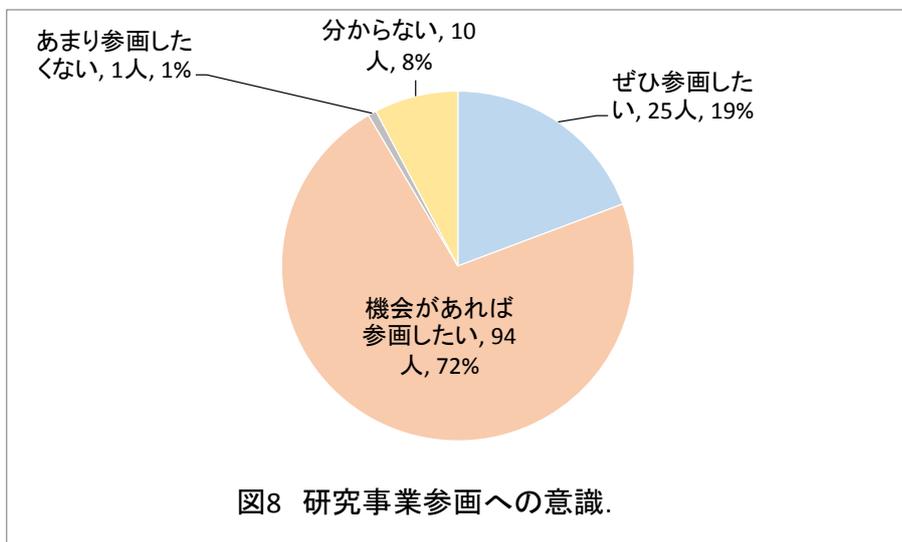
Q6. ディスカッションの内容の参考度 (N=120)

シンポジウムのディスカッションの内容が今後の支援にどの程度参考になったか回答を求めた。「非常に参考になった」「一部参考になった」「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」の4つの選択肢とした。その結果、26%が「一部参考になった」と回答しており、今回のシンポジウムの申込にて事前に質問を寄せ、それについてQ&A方式で回答したことで、ディスカッションの回答が実際の場面で役立つスキルとして捉えられたと推測できる。

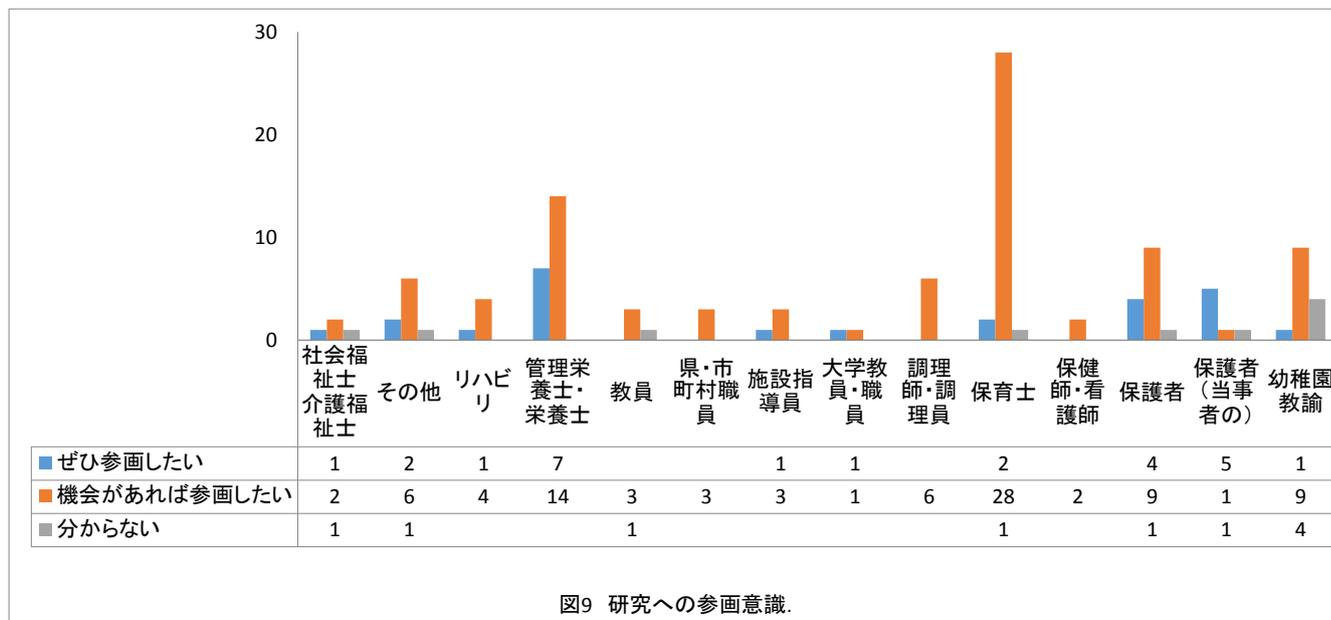


Q7. 「発達障害児の二次障害予防支援（あいあい）」への参画意識（N=130）

本学の研究ブランディング事業への参画に対する意識を「ぜひ参画したい」「機会があれば参画したい」「あまり参画したくない」「全く参画したくない」「分からない」の選択肢から回答してもらった。その結果、大多数が参画したいと回答していた。しかし、「分からない」と10名の回答があったことから、研究概要の説明をより明確に伝えることが必要と思われた。



研究参画への意識を職種別に表記した（図9、N=127）。おそらく保護者は我が子の支援を含めた希望に近い意識と思われる。一方、保育士や管理栄養士・栄養士に関しては今回のシンポジウムが実践的な講義であったこと、また現場における職員の困り感が現れた結果であると推測できる。



Q8. 自由記述

自由記述については感想、要望、質問等のいくつかの項目に分類して列挙する。なお、個人情報に関わる箇所、あるいは表記に誤りがあった箇所については加筆・修正した。

【感想・提案等】

- 食事支援についてはとても参考になりました。事例についてはもっとたくさん知りたいと思いました。
- 偏食、食支援は子どもの発達支援として大変重要であると思います。具体的でわかりやすい内容、大変参考になりました。
- 藤井先生へ 小1男子の母です。白ご飯、肉魚ばかりを食べます。お話を伺い、間食のカロリーが多いことと野菜にいきつくまでに満腹になっているのだろうと感じました。野菜はたまに食べてもふた口目につながる事が少ないです。小松菜の試食を食べてみて、お浸しの固さでは息子には固いと感じました。煮る方法で挑戦してみようと思います。
- 園に帰ってから、個々の食事理解、支援を深めていきたいと思った。
- 自分自身の勉強不足で認知できていなかったのも、これから資料やHPを見せて頂き、理解を深めたいと思います。本日はありがとうございました。
- 参加させて頂き、とても参考になりました。家族として具体的な取り組みが分かり、出来る事は支援していきたいと思いました。
- とても参考になりました。また参加できる事があれば参加したいです。
- シンポジウムの内容や今までの事例やその対応などをお聞きして、私たちが取り組んでいる内容が間違っていなかったと安心させてもらえました。これからは保護者への対応が重視される現場です。ぜひ、県からのサポートで市からの流れをもっと深められるよう人材の有無を拡散して頂きたいと願っています。現場からもお願いをしていく所存ですが。
- 色々な障害がある中で食事に関しては、「みんな一緒じゃなければ」という言葉に“はっ”とさせられました。子どもだけではなく、**保護者に対する支援**をして頂きたいと思います。当たり前が当たり前ではない時代だからこそ、私も考えて対応、接していきたいです。
- すごく**興味深い取り組み**です。一般の人にも分かりやすく「こういう取り組みをしているんだな」と伝えればいいですね。よい取り組みなので。
- 卒業生として短大でとてもよい活動が始まっていて**期待しています**。本日は試食もでき、とてもよい時間となりました。ありがとうございました。
- 年少で入園した時は、白ごはんしか食べなかったのが、年中で改善してきて喜んでいきます。しかし、家では、特定のものしか食べず悩んでおります。今日から家で、講演で聞いたことを参考に頑張りたいと思います。
- 困っている子どもたち、どう支えていけばよいか悩んでいる保護者の力に、これからは**温かく道筋を照らしてあげて欲しい**と思いました。どのお子さんも、保護者の方も楽しく気持ちよく生活できますように。
- とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ブランディング事業など詳しいことは知りませんでした。発達障害児の二次障害予防支援（あいあい）についても幼稚園でも気になる子が増えて来ています。**何か一緒に取り組めたら良いな**と思いました。参加の機会を頂きありがとうございました。準備等、お疲れ様です。

- 子ども理解だけでなく、保護者との密な連携がとても大切であると感じました。
- 限られた時間でしたが、たくさんのことを聞くことができた。とても勉強になった。私自身が調理をするわけではないが、保育者としてできることもたくさんあり、月曜から再度頑張っていきたいと思った。遠方から来てよかった。藤井先生ありがとうございました。
- 藤井先生の取り組みは HP 等で参考にさせて頂いていましたが、今日のように実際の食べ物で体験させていただいたことで深まりました。準備して頂いたスタッフの皆様ありがとうございました。大変参考になりました。藤井先生のきめ細やかな対応に感動しました。
- 勉強になりました。ありがとうございました。
- 長く小学校で発達障害児とその周辺の子どものための支援を行っていましたが、**小学校入学の時にすでに二次障害と思われる不適応行動を表出している**子どもが少なからずいるので、偏食をはじめ幼児期の対応を多角的にみんなで考えていければと思います。本日はありがとうございました。
- ありがとうございました。
- レジュメや拝聴内容等、同じ悩みを持つ**保護者の皆さんとシェア**させて頂きます。貴重なシンポジウムありがとうございました。
- 具体的で分かりやすくとてもよかった。試食する機会があり、子どもの立場に立つことが出来て、より分かりやすかった。家庭でも可能な限り工夫して取り組んでいきたいと思った。
- あまり食事への支援（偏食）に関する話は聞けないので大変勉強になりました。偏食で悩まれている方もたくさんいると今回参加して分かりました。園でも親同士話してもやはり解決法が見つからず、ずっとただただと過ごしていた毎日でしたが、料理法も工夫して少しでも食べられるものが増えればと思いました。また、**こういったシンポジウムがあったら**参加したいです。
- とても勉強になりました。また、ぜひお願いしたいと思いました。